

NEW

革新の能力 4ton アーム式リフト!
常識を覆す**強靱** フレームボディ!!

イーグルアドバンスリフト

EAGLE
dvance
ALY-F40A

4TON
SPEC
26EC



◀こちらの QR コードより
動画をご覧いただけます。
※QR コードは (株)デンソーウェブの登録商標です。

日本・米国・欧州・他
特許取得済

BANZAI NEWS

2023
Summer
327

特集
BANZAI NEWS

電動化で整備・修理技術の高度化と
インフラの変化が進んでも生き残れるお店作り

BANZAI 株式会社 **バンザイ**

本 社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: eigyo@banzai.co.jp

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

名古屋支店
名古屋市中区千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡
郡山・山形・新潟・長野
前橋・宇都宮・水戸・埼玉
千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸
高松・宮崎・鹿児島
- 出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・山陰・長崎
大分・熊本
- 販売会社 バンザイ沖縄販売(株)

<https://www.banzai.co.jp>



ISO9001 認証取得
ISO14001 認証取得

バンザイは SDGs を推進する
日本ユネスコ協会連盟の維持
会員として支援しています。





乗鞍スカイライン 岐阜県

標高2700メートル、乗鞍岳に連なる峰々を巡る天空のスカイライン。大黒岳から桔梗ヶ原を経て四ッ岳、はるかに北アルプスへと続く中部山岳の山々は、爽やかな夏の気候の中に美しい姿を見せています。

★歳時記

- 7月 7日 七夕
- 17日 海の日
- 8月 6日 広島平和記念日
- 8日 立秋
- 9日 長崎原爆の日
- 11日 山の日
- 9月 18日 敬老の日
- 23日 秋分の日



●目次

★特集

相次ぐパラダイムシフトへ

果敢に挑戦できるサービスショップとなるには?..... ①

【第2回】電動化で整備・修理技術の高度化と
インフラの変化が進んでも生き残れるお店作り

★モデルショップ訪問

【株式会社千照運輸 本社サービス工場】..... ⑥

「人」が主役の快適な作業環境で、
大型車両の安全・効率的な稼働をサポート

【富山日野自動車株式会社 本社工場】..... ⑧

安全に作業できる環境づくり、
人づくりでサービスの未来展望を描く

★第37回オートサービス2023開催..... ⑩

★ロータリー..... ⑯

★BANZAIガイド..... ⑰

特集 BANZAI NEWS

相次ぐパラダイムシフトへ
果敢に挑戦できるサービスショップとなるには?

第2回

電動化で整備・修理技術の高度化と インフラの変化が進んでも生き残れるお店作り



2020年4月よりスタートした特定整備制度における電子制御装置整備の経過措置が2024年3月末で終了し、OBD検査が同年10月より開始されるなど、自動車整備技術高度化への対応に向けた法制度の改正は、いよいよ大詰めを迎えようとしています。

しかしその間にも「CASE」（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）と呼ばれる先進技術の進化・普及は留まる所を知らず、とりわけ電動化技術の進化・普及は近年急激に加速し始めています。

当連載「相次ぐパラダイムシフトへ果敢に挑戦できるサービスショップとなるには?」、2回目の今回は、電動化による整備・修理技術の高度化とインフラの変化にどう対応すべきかを、考えていきたいと思います。

2024年10月、OBD検査開始。 いち早く対応する方策は？

2019年3月に道路運送車両法の一部改正案が閣議決定され、特定整備制度やOBD検査の導入、車検証電子化、OTA(Over The Air)アップデート許可制度創設など、サービスショップの皆様のビジネスにも大きく影響する制度変更に向け、大きく舵が切られてから早4年。その間にも以下の通り、数多くの制度改正が行われました。

- ・ 特定整備制度開始【2020年4月～】
- ・ 自動運転レベル3実用化【2021年3月】
- ・ サイバーセキュリティおよびOTAアップデート基準の適用拡大【2021年7月～】
- ・ OBD点検開始【2021年10月～】
- ・ 衝突被害軽減ブレーキ義務化【2021年11月～】
- ・ バックカメラなど後退時車両直後確認装置の義務化【2022年5月～】
- ・ EDR(イベントデータレコーダー)義務化【2022年7月～】

そして2024年3月には、特定整備制度における電子制御装置整備の経過措置が終了。同年10月より開始されるOBD検査に関しては、2023年2月より検査用スキャンツールの認定試験、4月にOBD検査システムの運用と事業場ID申請受付が始まり、10月よりOBD検査のプレ運用が開始される見込みです。

しかしその間にも「CASE」(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)と呼ばれる先進技術の進化・普及は留まる所を知らず、とりわけ電動化技術の進化・普及は近年急激に加速し始めています。

その結果、自動車の電子制御技術はますます高度化し、従来の五感に頼った点検整備だけでは最早、不具合とその予兆を完全に把握することは不可能になったと言っても過言ではないでしょう。



「検査用スキャンツール」の型式認定第1号を取得し「整備用スキャンツール」の技術要件にも適合する汎用スキャンツール「MST-nano」

バンザイではオリジナルの「MST」シリーズを2009年より展開し、汎用スキャンツールを用いた故障診断のニーズへいち早くお応えしてまいりました。また前述の制度改正にも対応しており、電子制御装置整備で必要となる「整備用スキャンツール」に関しては「MST2000」「MST3000」(以上は販売終了)、「TPM-i-BZ」「TPM-i-BZ2」「MST-7R」「MST-nano」がその技術要件に適合しております。

そしてこのほど「MST-nano」が、OBD検査で必須とされている「検査用スキャンツール」の型式認定第1号を取得しました。この「MST-nano」を、10月より開始予定のプレ運用にお使いいただくことで、2024年10月より本格運用が開始されるOBD検査の実務を、メカニックの皆様があらかじめ習得することが可能になります。

「MST-nano」はOBD検査と電子制御装置整備へ法的に対応するのみならず、ADAS(先進運転支援システム)のエイミングとその作業証明書作成、各種診断結果のプリントアウト、使用頻度の高い作業サポートを集約したメンテナンスモードなど、故障診断と点検整備の実務においても効率と精度を高めてくれる多彩な機能を備えております。詳細についてはバンザイ営業スタッフへお気軽にお問い合わせ下さい。



BEVの整備にも柔軟に対応できる能力4tのパンタ式アームリフト「イーグルアドバンスリフト」

車両自体の構造が異なる BEVの整備はどうする？

さて前号では、電動化に伴う車両のメンテナンスフリー化について、詳しくお話ししました。そこで今回は、電動車の普及によってサービスショップの皆様の実務がどのように変わるのか、前述のスキャンツール以外の面についても考えてみたいと思います。

「ICE」(アイス。本来は「内燃機関」の意)とも呼ばれる純エンジン車になく、電動車に搭載されるもの、その代表格はモーターと駆動用バッテリーです。この2つは電気を使ってタイヤを駆動する割合が高くなるほど大型化する傾向にあるため、エンジンがなく電気でのみ走行するBEV(バッテリー式電気自動車)では、エンジンがない分を打ち消して余りあるほど大きな重量物となります。従って、車両全体の重量も同クラスのICEより大幅に重くなります。

また航続距離拡大のため駆動用バッテリーに大きな容量が求められるBEVでは、ホイールベース間のフロア下に搭載され、それが最低地上高または室内高を減らす要因となること、加えて世界的なカーオーナーのニーズの変化も相まって、近年のBEVはSUVモデルが多い傾向にあります。これも車重のさらなる増加、また前号で詳しく解説しましたタイヤ整備高難



BEV駆動用バッテリーやエンジン・トランスミッションの脱着にも使える「ユニバーサルマルチリフター」

度化の要因となっています。

そのため今後、能力3.2tのものが一般的な従来の乗用車用リフトでは、こうしたSUVタイプのBEVに対応できなくなる可能性があります。また、10年10万km以上の長期にわたり所有・使用されるBEVの保有台数が増加し、駆動用バッテリーの交換作業が頻発するようになれば、重く長さも幅も広いそのバッテリーパックを、安全かつ容易に脱着できる作業環境も必要不可欠になるでしょう。

バンザイでは、このようなBEVの整備にも柔軟に対応できるよう、前後どちらからでもリフトアップ可能で、リフトアップ時のリフト間距離が広く、3段式スライドアームや調光式LED照明を標準装備した、能力4tのパンタ式アームリフト「イーグルアドバンスリフト」をご用意しております。また、高電圧部位の整備に対応した絶縁工具や保護具、駆動用バッテリーを状況に応じて適切に充電できる急速充電器・普通充電器も取り扱っております。

さらに、交換式のリフター受台を採用し、BEVの駆動用バッテリーに加えICEのエンジンやトランスミッションの脱着も1台で対応可能とする「ユニバーサルマルチリフター」を開発中です。ぜひご期待下さい。

軽量素材を多用した車両の車体修理、そのポイントは

一方、車重の増加はクルマの「走る・曲がる・止まる」全てに悪影響を及ぼします。とりわけBEVでは、その普及を阻害する主要因の一つとなっている航続距離の短さにも直結するため、それを少しでも解消すべく、軽量化技術が積極的に採用される傾向にあります。

高張力鋼板やアルミニウム合金は言うに及ばず、今後CFRP（炭素繊維強化樹脂）やCNF（セルローズナノファイバー）の大量生産技術が確立されれば、こうした樹脂素材の使用車種・部位も拡大していくと予想されます。また、これら素材を適材適所で用いるための構造用接着剤やセルフピアシングリベットなど異種材接合技術も、より普及が進むことでしょう。

こうした車両の車体修理を行うにはまず、どの部位にどのような素材・厚さのパネルが用いられているか、各部の寸法は何mmか、どのような修理方法がカーメーカーより指定されているかなど、正確な修理情報の収集が不可欠です。そのうえで、取扱車種の修理に必要なボディ計測・修正機、溶接機、リベッ

ターなどの設備を導入し、かつそれらを使いこなすための修理技術を習得することが肝要となります。

バンザイでは最新モデルの整備・修理情報を常に収集しながら、カーメーカー認定・推奨の整備・修理機器を多数取り揃えるなど、サービスショップの皆様により高精度な車体修理をサポートいたしております。ぜひお気軽にご相談下さい。

踊り場にあるインフラの変化をチャンスとするには

最後に、電動化技術の進化・普及がもたらすインフラの変化についても、簡単に触れたいと思います。

SS（サービスステーション＝ガソリンスタンド）の軒数は、電動車の先駆けである初代トヨタ・プリウスが発売される1998年よりも前、1994年度の6万421軒をピークに右肩下がりとなっています。

これは電動化のみならず、既存のICEにおいてもエンジン自体の燃費改善や車両のダウンサイジング傾向が進み、さらに地下埋蔵タンクの漏えい防止策を義務づける2010年6月の消防法改正なども追い討ちをかけた結果と考えられます。そして電動化技術

の進化・普及が今後も加速し続ければ、SS軒数はますます減少することでしょう。

その一方、BEVやPHVに必要な充電スポット、FCVや将来市販化されるであろう水素エンジン車に必要な水素ステーションの軒数は頭打ち傾向にあります。

こうした事態をそのまま放置すれば、特にSSやSSを併設するサービスショップの皆様は、売上のみならずカーオーナーとの接触機会も減少していく負のスパイラルに陥ります。

ですが裏を返せば、この中では比較的lowコストかつ需要増も見込める充電設備を、現時点で積極的に導入すれば、BEV・PHVオーナーとの接触機会増加が期待できます。また今後の情勢次第では水素ステーション、あるいはバイオ燃料や合成燃料を取り扱うSSの設置も、サービスショップの皆様が勝ち残るための選択肢に入ってくるのではないのでしょうか。

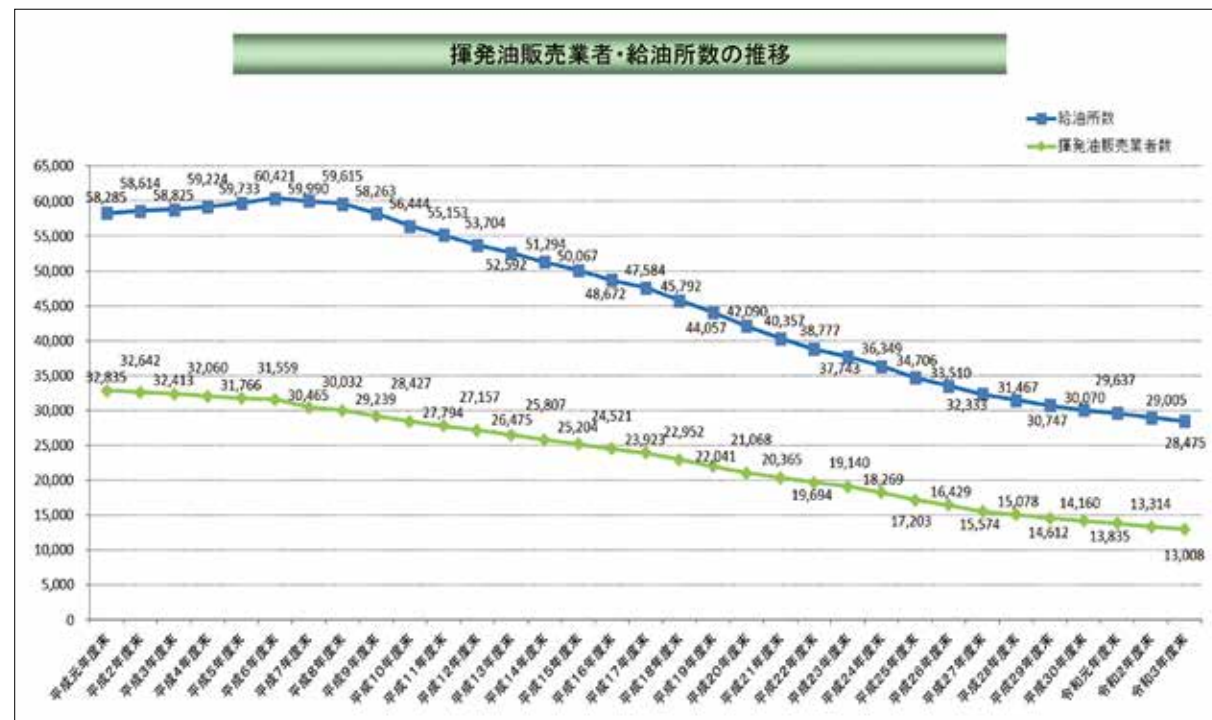
今回は自動運転技術に焦点を当て、「自動運転技術の進化・普及をチャンスにできるお店作り」について考えたいと思います。



1口最大90kWで充電可能な2口タイプの100kW急速充電器「ニチコンNQD-UCX04シリーズ」



多様な素材・接合技術を用いた車両の高精度な位置決め・修正が可能なユニバーサル式ジグシステム「セレット・カメレオンプラス」



揮発油販売業者数及び給油所数の推移（登録ベース。出典：資源エネルギー庁）

「人」が主役の快適な作業環境で、大型車両の安全・効率的な稼働をサポート

松山市に本拠を置き、解体・土木工事、環境・リサイクル事業など幅広い事業を展開するオオノ開発株式会社を中心とする「オオノアソシエーツ」のグループ企業、株式会社千照運輸では、このたび同社の保有車両を対象とするサービス工場を東温市の本社敷地内に完成、大型車・重機のあらゆる整備を行う最新設備の導入と併せ、清潔で快適な作業環境を実現しています。



本社・サービス工場の全景。敷地奥側に橋形クレーン2基、洗車場を設置。



取締役社長
岡田 多方一 氏



建屋は明るい木質感のデザイン。南欧風の石垣は同グループのマテラ石を使用。

清潔・快適な作業環境を重視

松山市の東に接する東温市の郊外に完成した新工場は、約3万平方メートルの広大な敷地に建設され、延べ床面積4,473平方メートルの建屋に本社、サービス工場のほか福利厚生面の施設も併設しています。

今回の新工場計画はグループ内で保有する200台を超える大型車両と、約230台の各種重機の整備を行うため、従来の小規模な本社工場を、規模・設備の両面で拡大・刷新することが目的です。

「自社できちんと整備することで、大型車と重機を故障なく効率的に稼働することが第一の目的です」と取締役社長、岡田多方一氏。あわせて重視されたのがリクルート面での効果です。整備士においても人材不足が問題とされる中、「清潔で快適な作業環境が、人の採用面でも、また教育面でも不可欠」とされ、新工場での環境づくりに配慮されています。



点検、車検整備から塗装まで大型車のあらゆるサービスに対応。

あらゆる整備に対応する最新設備を導入

同グループで保有する車両は28トン積みダンプトレーラーをはじめ、コンクリートミキサー車、ローリー車、ポンプ車など、また重機では世界最大級のクレーン車まで多彩です。

新工場ではこれら多彩な車両に対してあらゆる整備を可能とする最新の設備機器を導入、整備ストールとして7ストールに検査ライン、そのほか大型塗装ブース、小型車整備3ストールを併設しています。

主な設備は3柱式キャタピラツインIIが1基、フロアリフト1基、キャタピラツインII2基など、充実した省力化・効率化設備で大型車の各種サービスに対応するとともに、工場内の全スパンを移動できる天井クレーンを装備し、全ストールで上物の架装を含め重整備への対応を可能としています。



天井クレーンは全スパン移動可能。リール類は架台に設置。



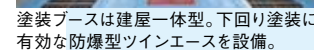
幅広い活用が可能なフロアリフトを導入。



キャタピラツインIIは2柱式2基、3柱式を1基導入。



完成検査ラインにはビットと10tビットジャッキを設備。



塗装ブースは建屋一体型。下回り塗装に有効な防爆型ツインエースを設備。



鉄板を敷設した板金ストール。社員、家族の保有車を対象に小型車整備3ストールを併設。溶融メッキを施工。



側面・下部洗浄機を備えた通過式の洗車場、多数のノズルで強力に洗浄。

「人」が主役、能力を発揮できる環境に

同グループでは主要事業である土木・解体作業や廃棄物搬送・処理など、全国各地の作業現場で事業を展開するほか、近年多発する地震や豪雨による災害の復旧、復興にも大きく貢献されています。

本社屋2階にはこれら各地の作業現場で稼働する重機の無人操作を可能とする、「5G」通信を利用した遠隔操作システム2台を展示。これは現場オペレーターの安全と作業の効率化を実現する画期的システムとして同社が開発に協力したものです。

同様に「人」を最優先する施策として新工場では福利厚生面も重視。工場と隣接する社屋2階には会議室、シャワールームのほか本格的なトレーニングルームも併設するなど、アメニティ面でも、かつてない充実した設備を実現されています。

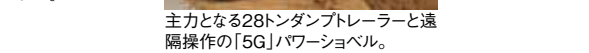
将来的な人材確保を図るためにも、同社では「業界のリーディングカンパニーとして、人が主役の環境づくりを推進したい」（岡田社長）と、意欲的に取り組まれています。



同社とコマツ、アースブレイン社の共同開発による、「5G」通信を利用した遠隔操作システム。



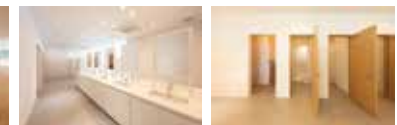
現場の重機からのカメラ映像によりリアルな遠隔操作を実現。



主力となる28トンダンプトレーラーと遠隔操作の「5G」パワショベル。



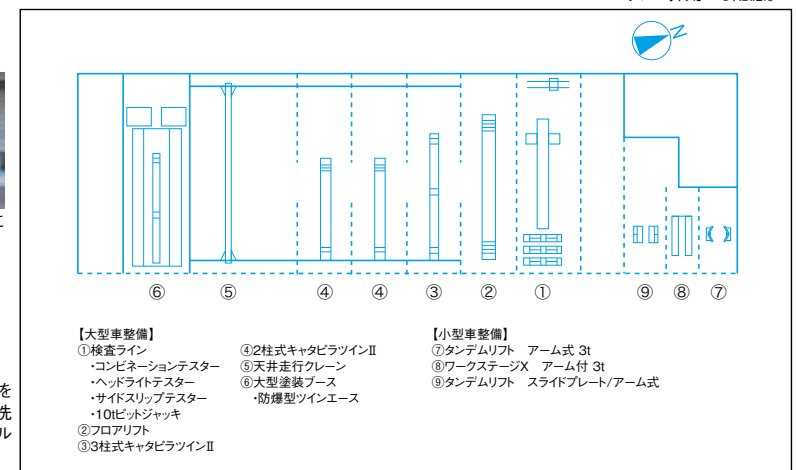
充実した設備のトレーニングルーム。



ロッカールームは男性、女性用それぞれ完備。



シャワールーム、パウダールームも完備。女性メカニックの採用にも配慮。



安全に作業できる環境づくり、 人づくりでサービスの未来展望を描く

富山県内に本社ほか3営業所を展開する富山日野自動車株式会社では、同社が掲げる「健康企業宣言」の施策として取り組む「健康で安全に働ける職場環境づくり」の一環として、今回、大型車整備工場の2レーンを最新の安全装置を備えたフロアリフトに更新し大型車整備のより安全な作業環境づくりを推進されています。



富山県内に4拠点を展開。



代表取締役社長
小林 誠氏

安全な環境づくりを全拠点で推進

富山市街から西へ約4キロ、幹線県道「富山高岡線」に面した同社本社は、約6,700坪という広大な敷地に大型車、中・小型車の一般・車検整備、車体整備など各棟をレイアウトしています。

「とくに大型車のサービスは安全が第一、その上でいかに効率化を図るか、が大前提です」と代表取締役社長の小林誠氏。今回のフロアリフト更新も、全社で推進されている作業環境改善の一環です。同社では全社で約50レーンある整備スToolの環境整備を図るため、定期的な設備更新・改善を実施しています。フロアリフトについては2016年に建設された中・小型車整備工場に導入され、幅広い作業で効果的であることから大型車整備棟の2レーンも最新の設備に更新されたものです。

多彩な整備を、楽な姿勢で安全に

作業の安全性の面から大型車両ではタイヤ脱着以外はできるだけリフトアップせずに作業することが望まれます。同時に近年では低床・4軸車両などの増加にともなって、作業者の負担軽減が大きなテーマとなっているとのこと



今回フロアリフトが導入された大型車整備工場。

こうした見地からフロアリフトは乗り入れが容易で、クイックサービスから重整備まで多目的に活用できるメリットと同時に、作業者の目線に合わせて自在に昇降でき、車両の下回りを「安全に、かつ楽な姿勢で作業できる」のが最大の利点とのことです。

更新されたフロアリフト2レーンのうち1基は2分割式、もう1基は3分割式とし、2柱式ピットジャッキも装備し、多彩なサービスへの活用が図られています。また安全面では転落防止用のピットカバー、非常時の緊急停止装置など万全の装備を採用しています。



2レーンにフロアリフトを導入。



2分割式、3分割式フロアリフトを各1レーン。各レーンはピットで連結し作業性、安全性を向上。



作業姿勢に合わせて、フロア高さも自在に。



ホイール脱着等の作業に、2柱式ピットジャッキを装備。



ピットカバーでリフト降下時の転落を防止。



緊急時も自動停止装置で挟み込み事故を防止。

人材の育成、長期的視点でサービス向上

各業界で人材確保が大きな課題とされる中、同社ではすでに技能実習生、高度人材を含め、10数名の海外人材が在籍し、技能習得、戦力の両面で活躍しています。

「人材育成は業界全体の課題です」と小林社長。高度人材を育成するうえでも語学が必須とされ、技術面と共に日本語教育など同社独自の支援策を実施される一方、「外国人実習生の指導に当たる担当者の育成も大切」として、業界各社での連携も推進されています。

社会・経済を支える大型車のサービスにおいても急速な技術革新が進行する中、同社では一連の設備・環境改善は人材の採用面でも長期的な効果につながるものと期待され、これら人材面、設備面の充実と共に、「つねにお客様の目線でサービスを考えることが大切」と、長期的視野に立ったサービスの向上にも期待されています。

中・小型車整備工場棟は4スToolと新車点検場を併設。



一般、車検整備にキャタピラツインIIを3基導入。



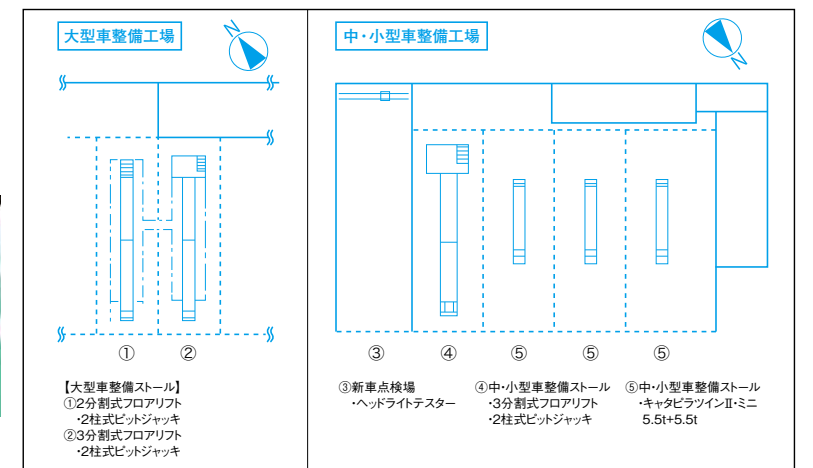
3分割フロアリフトは多彩な整備で高い安全性と作業性を発揮。



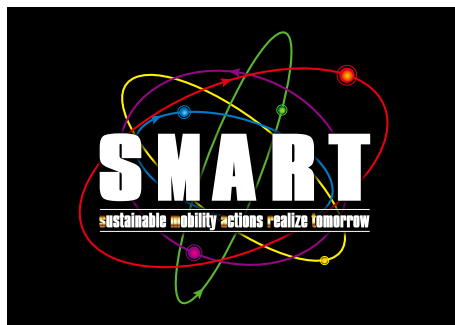
完成検査場にはネットワークシステムを導入。



検査ラインにもフロアリフトを設備。



第37回 オートサービスショー2023開催!!



バンザイブースへ、 ご来場ありがとうございました!

6月15日から17日まで、自動車整備・検査機器の展示会「オートサービスショー2023」が東京ビッグサイトで開催されました。コロナ禍の影響により開催は4年ぶり、また前回は青海会場での開催となったことから、東館での開催は6年ぶりとなりました。

バンザイは今回、「SMART SERVICE ～自動車整備のみらいをデザイン～」をテーマに、変革期に直面する自動車サービス業への各種ソリューションを発信。屋内・屋外での各コーナー別に新商品、参考出品を含め多数の商品を展示し、各種のデモンストレーションを行いました。



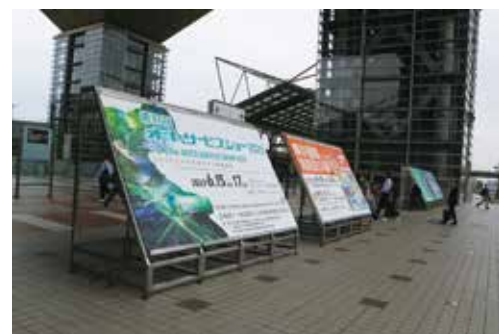
未来のサービスを提案するバンザイブース。



テーマは「SMART SERVICE ～自動車整備のみらいをデザイン～」



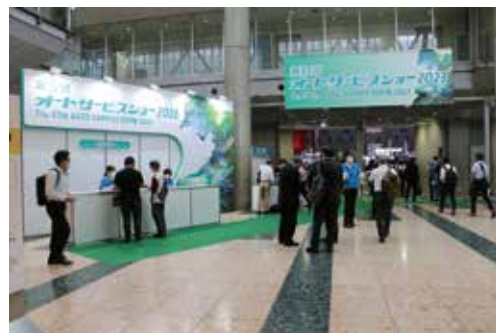
開会の辞を述べる機械工具協会会長、柳田昌宏。



東京ビッグサイト東館での開催は6年ぶり。



来賓によるテープカットでショーが開幕。



事前登録により入場もスムーズ。



車検機器・車検システム

2024年10月のOBD検査開始を目前に、スキャンツールをはじめとするIT化機器など、検査業務をサポートする先進システム、検査員の作業負担軽減やコンプライアンス対応につながる各種システムを提案。



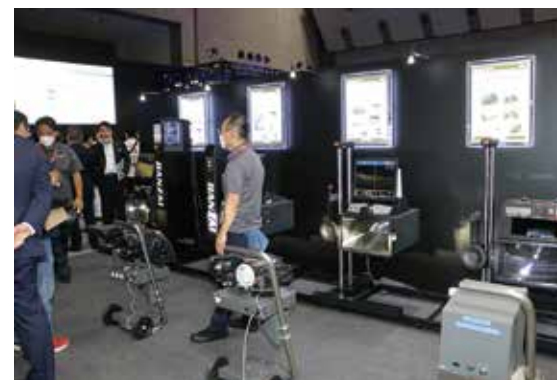
検査業務のIT化による検査員の負担軽減、人材確保を提案。



検査業務をサポートする各種システムをラインナップ。



IT化が未来サービスへの必須の対応となる。



多様化する灯火に対応する最新ヘッドライトテスター。



トータルエイミング

レベル3からさらにレベル4へ向けて進化するASV技術。高精度で迅速なトータルエイミングの実現へ、「Q-DAS」、「Q-Line」など高度なデジタル化機器で万全のサポート。



「Q-DAS」、「Q-Line」、「イーゼットレッド」は、高精度で迅速なトータルエイミングを実現。(参考出品)



「eTarget」は各メーカー車のターゲットをデジタル表示。(参考出品)



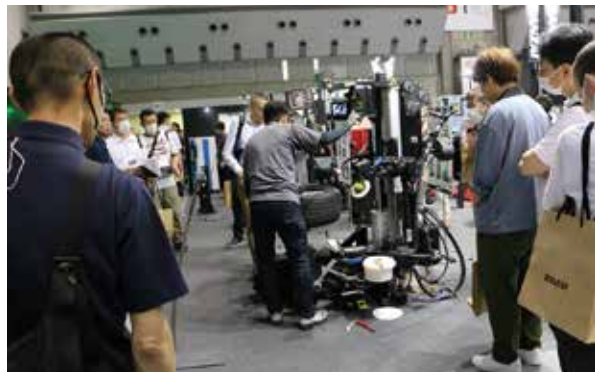
タイヤ販売、アライメント提案にもつながるトータルエイミング。





タイヤ機器

高性能化、低偏平化など多様化・高難度化するタイヤ交換、バルancing作業に対応し各種自動化機能を搭載したチェンジャー、バルancerを展示。



セミオートレバーレスのMON-8800Pタイヤチェンジャー。



ユニフォーミティ診断機能付きR-UNFタイヤチェンジャー。



ホールサイズ、ウエイト種別自動識別機能搭載のホフマンGEO-7800-2Pバルancer。



大型車タイヤチェンジャーも省力化、自動化へ、セミオートPIT G-50Vチェンジャー。



BEV

電動化により増加する車両重量に対応するリフト、また駆動バッテリー、モーターの整備をより効率的に行えるエンジン・ミッションリフターを提案。さらに今後必須となる各種充電器も展示。



広い作業スペースを実現するイーグルアドバンスリフト。



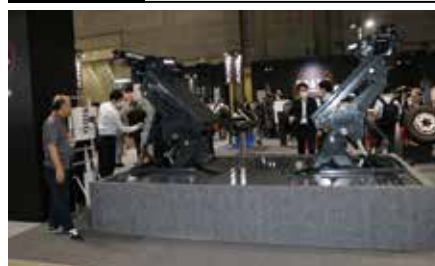
今後増加するEVバッテリー、トランスミッションなどの脱着に対応するユニバーサルマルチリフター。(参考出品)



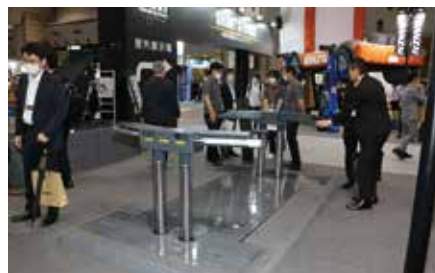
EV時代に必須となる普通充電器、100kV急速充電器。



リフト



イーグルアドバンスは広い作業スペースと安定したリフトアップを実現。



幅広い車種に作業性の良さを発揮する4トン仕様タンデムリフト。(参考出品)

SUVの増加、EVへの移行などにより重量化する車両を楽々リフトアップ、余裕あるサービス空間で作業の効率化を提案。電動式・新コンセプトのタイヤリフターにも注目。



新コンセプトのタイヤリフター「ハイスピードタイヤリフター」(参考出品)。

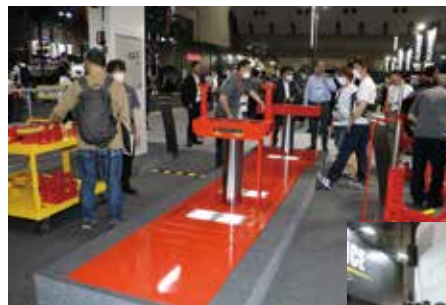


幅広い車種に対応、アタッチメントも一新。



大型車整備機器・リフト

安全で効率的な作業環境の創造が大型車サービスの最優先課題。受台をリモートで調整できるキャタピラツインII、ピット作業の安全性を確保できるピットカバーを装備したフロアリフトなど、大型車サービスの快適な作業空間を提案。



受台を楽々調整でき、LED照明内蔵の油圧スライダー式キャタピラツインII。(参考出品)



電動式「セーフティピットカバー」でピット作業の安全性を向上。



優れた安定性、安全性を発揮する移動式大型車リフト「モバイルコラム」。



エア駆動、ネジ軸による安全な昇降が可能な「モバイルプラットフォーム」。



板金・塗装機器

特定整備制度への対応も視野に高精度ボディアライメントを実現する、3次元コンピューター計測器やユニバーサル式ジグシステムを提案。さらに水性塗料に対応する加湿装置や空調機能付きブースのデモンストレーション。



3D車体計測システム「ナジャ」と、連携して高精度修正を行えるジグシステム「カメレオン」。



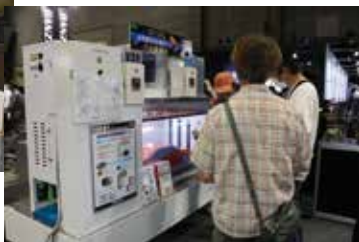
ほぼ全てのリベット作業に対応するリベッティングツール「Xpress 800」。



洗浄後のフロアマットを効率的に乾燥できる「フロアマット乾燥機」。



ハンドルで巻き取り、目詰まりを防止するロール式、塗装ブース用排気プレフィルター。(参考出品)



水性塗料への移行も急務。加湿対応ブースのデモンストレーション。



環境・カーボンニュートラル

サービス工場の電力・エネルギーの効率的使用を実現する各種システムのほか、整備士の方が働きやすい作業環境づくりへ向けた各種環境機器を提案。



電力、エネルギーの見える化によるカーボンニュートラルを提案。



各種フルード交換、冷媒交換機も環境ビジネスの必須アイテム。



工場内の環境改善は人材対策、環境対策の切り札。



エネルギー利用の最適化提案でカーボンニュートラルを推進。



門型洗車機・洗浄機器

洗車・洗浄作業における作業負担の軽減と効率化、さらに洗車ビジネスの付加価値化・収益化につながる各種洗浄機器を提案。



屋外では各種洗車・洗浄機器を展示。



洗車機能と操作性を追求、新型エminent門型洗車機。



洗車をビジネス化提案するB-PROとナイスホットシリーズ。

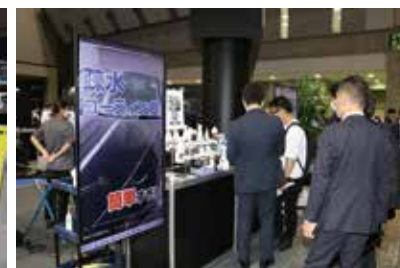


美装(B-PRO)

自動車サービスにおける高収益化提案として注目される美装ビジネス。プロのための高性能トータルコーティング (B-PROコーティング) や工場美観を保つための美装関連機器を実演展示。



電源がない環境でも洗浄可能なケルヒャーバッテリー式洗浄機器。



付加価値の高いコーティングを実現するB-PROシリーズ。



中古車再生ビジネスに最適なシートクリーナーを実演展示。



安全啓蒙

サービス機器の適正な使用方法、定期的な点検の推進など、事故撲滅を目指し来場者に向けた安全使用の推進を提案。



リフト、コンプレッサーなどの定期点検の重要性をアピール。



整備機器の事故ゼロを目指して、不具合部品を展示。

■MSC感動夢工場 第2回定時総会・第2回研究会を開催

昨年、組織を統合し自動車整備業の新たな研究団体としてスタートしたMSC感動夢工場では、さる6月15日(木)、16日(金)の両日にわたり、設立以来第2回目となる総会および研究会を、江東区有明の相鉄グランドフレッサイン有明を会場として開催しました。

15日の総会では2022年度の事業報告と収支決算報告および監査報告、2023年度の事業計画案ならびに会計予算案を議案として審議が行われ、議案



各地から会員企業が参集。



挨拶に立つ会長、山崎太氏。



開会に先立ち、バンザイからのメッセージを述べる常務取締役、小池則之氏。

の通り可決し2023年の活動方針が決定されました。

また研究会では株式会社フロントオフィスの代表取締役、野崎英直氏により「持続可能を実現する社員の成長と定着」と題して、自動車サービス業界における喫緊の課題である人材育成をテーマに講演が行われました。

16日には会場を東京ビッグサイトに移し、同日開

催中の「第37回オートサービスショー2023」見学会を開催。実施を目前にしたOBD検査への対応、IT化による作業者の負担軽減、省力化や安全な環境づくりなど、コーナーごとの展示、提案をご覧いただいた参加会員から高い関心が寄せられていました。



講師、株式会社フロントオフィス代表取締役、野崎英直氏。

BANZAI GUIDE

役員のご紹介

バンザイでは令和5年6月28日に開催いたしました、第97期定時株主総会後の取締役会において、下記の通り各取締役・委嘱業務を決定し、就任いたしました。今後とも皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長		柳田昌宏(重任)
常務取締役	営業本部 営業統括本部長	山本正明(昇任)
常務取締役	管理本部 管理本部長 経理部長	金澤文男(昇任)
常務取締役	営業本部 営業本部長 技術部長	小池則之(昇任)
取締役	管理本部 管理副本部長 総務部長	山田卓志(重任)
取締役	海外販売部長	木村亨
取締役	営業本部 営業副本部長	荒木龍紀
常勤監査役		根本茂(新任)
監査役		川田剛
監査役		岩知道真吾

尚、本株主総会をもって退任しました監査役飛田敏行氏は当社顧問に就任しました。

編集後記



4年ぶりに開催されましたオートサービスショー2023に多くの方々にご来場いただきありがとうございました。コロナ禍でお会い出来なかった人にもオートサービスショーでお会いすることができ、大変うれしく思いました。今回のオートサービスショーでは新商品、コンセプト商品(参考出品)を多く出展した結果、皆様から色々

なご意見を直接お聞きすることができました。また、コロナ禍でWebミーティング、電話、メールでのやり取りが多くなりましたが、直接お会いして意見交換することが改めて必要だと感じました。オートサービスショーの会場の皆様から頂きました貴重なご意見を、少しでも早く商品化したいと思います。